

# 作文や日記で子どもを知る

4月の新歓フェスタの講師土佐いく子さんが、「どの子どもも参加したくなる 希望の授業づくり」(フォーラム・A)の中で執筆されている内容を紹介します。

## どんな指導も入らない高学年と格闘する中で

「子どもがなんだかこわい...、私嫌われている...? あの子、何を考えているのか不安。こんなときの出番が日記や作文です。『ああ、まだこの子とつき合える』と見捨てずにこられたのは、たまたまに書いてくる日記からその子の心の声が聴き取れたからでした。」

### 子どもの生活が見える日記

前の日曜日、夜の十時ぐらいになったら赤ちゃんが泣いてしまった。それでミルクの作り方がわからなかったから、だっこをして、一時間かかって やっとねた。

けどつかれてふとんに入ったら またなきそうになつて、トントんしてやった。しんどかったです。

### 「ばあちゃんのこと、せ中ふいたった」

しゃべらない、笑わない洋ちゃん、本当にかわいくない。何を考えているのかわからず近づけない...。そんなある日、ひょいと日記を書いたきたのです。『ばあちゃんが病気でふる入られへんからせ中ふいたった。』と一行書いてありました。

なんともいとおしく、急に洋ちゃんが人格をもった人間として立ち上がった。感動してしまいました。みんなに読んであげたとき、洋ちゃんは恥ずかしそうに、照れながら笑ったのです。

### 今日も宿題を

してこない子が

「また宿題をしてへんの!」と朝から怒鳴りそうになりましたが、恭ちゃんが珍しく日記を出していま

す。読んでみると、両親の帰りが遅くて、ぐずる弟の面倒をみていてしんどかったよ、先生。と書いてあるのです。そうか、がんばってきたんだね、と自分の中に優しいものが流れるのを感じます。子ども発見です。

上手に書かそうと思わない!

下手、短い、字が

汚いなどとケチをつけないで作文や日記を読んでもみてください。その子が一番伝えたいことをいっしょに喜んだり、悲しんだり、共感したりしてやるのが最も大切です。

忙しくてもできる作文・日記指導を続かせる工夫

・ A4半分の紙に5行程度の線を入れた紙を用意しておく。担任やみんなに聞いてほしいことがあ



れば自由に書く。

・ 休日の出来事を4、5人に話してもらい、その後みんなにも気楽に書いてもらう。そのときに書けなくても強制しない。これを朝の会に読んであげるのがコツ。

・ 日記帳を作り、月曜日は1、2班が提出と、週2回くらいの提出日を作る。毎日では大変です。これも読んであげると学級が変わるし、文章もいきいきしてきます。

## 2019 泉北・泉大津 新歓フェスタ

# どの子どもも見捨てへん

～先生にやりがい 子どもに生きる希望 親に安心を～

## 土佐 いく子さん

(和歌山大学講師)

日時：2019年4月7日(日)

午前10:00～

場所：和泉市コミセン

1F 中集会室



来年度4月の泉北・泉大津教組新歓フェスタは、元大阪市の小学校教諭の土佐いく子さんをお招きします。作文から子どもたちの日常を知り、心に寄り添う実践をされてきました。

新年度、子どもたちをいとおしく思うことから始めませんか。

みなさんの参加をお待ちしています。